

日本の古典芸能の「能」は、時々演者が舞台の上でピタリ静止して、動かなくなる場合があります。でもそれは、別に舞い方を忘れた訳でも、身体の調子が悪くなった訳でもなく、「居グセ」という、一つの立派な技術なんですね。そして、そこでジッと動かないからこそ、次の舞が、プラグがスパークするように鮮やかなものに映るようになる。そういう意味では、静止している部分は、観客の心を準備させる最大の役割を担っており、この静止で如何に皆の心を一つにするかが、演目を成功させるためのカギになっていると言えるでしょう。

さて今日から3週間、主日のミサの福音にイエス様は登場しません。あたかもクリスマスにプラグを最大限にスパークさせるために、本当はおられるイエス様を「隠している」、「ぼやかしている」ようにも感じます。イエス様が登場しないとは言え、この「静止部分」で、如何に私たちの心を一つにして、イエス様到来の希望を燃え立たせることができるか、「主の降誕」の恵みが「恵み」となるかは、この3週間にかかっている、そのように言うことができるでしょう。

そこで、今日と来週の福音は、私たちの「準備」を促す方として、洗礼者ヨハネが登場します。今日読まれた『ルカ福音書』には、ヨハネの出生の経緯が、割と細かく書かれています。「主の到来を準備する者」としては、『ルカ福音書』においても、このヨハネという方、他の福音書同様、全く突然、表舞台に登場します。旧約聖書の代表的な預言者、エリヤと同じですね。エリヤという方も、『列王記』という書物の中で、いきなり「主は生きておられる」と叫んで登場します。洗礼者ヨハネは「エリヤの再来」と思われていましたから、もしかしたら福音の記者たちは、意識的に、ヨハネの登場を、エリヤの登場にダブらせて記述したのかもしれない。

ま、それはともかく、今日の福音は、ヨハネの登場の前に、様々な「この世の権力者」の名前が連ねられています。この人たちは政治的に、また宗教的に、イスラエルの民の上に君臨していました。この人たち、しなやかで豪華な衣服を身に纏っていたでしょう。壮大な城や邸宅に住んでいたでしょう。しかし「神のことば」は、らくだの毛衣を着、いなごと野蜜を食べ、荒れ野に在った、洗礼者ヨハネに降ったのです。そして、「神のことば」を預かったヨハネがしたこと、それは「悔い改めの洗礼を宣べ伝え」ることでした。

「悔い改め」、私たちはよく「回心」と言っていますが、この単語、ギリシア語の原文では「メタノイア」と言います。意味はともかく、「メタノイア」という言葉は、皆さんもよ

く耳にされるのではないのでしょうか。意味は「回心」です。さて、「悔い改め」、「回心」というと、一般には「自分の生活を改めること」と考えられています。しかし、これは皆さんも御存知でしょうが、「メタノイア」という言葉に「生活改善」の意味はありません。「生活改善」の意味の「改心」は、別に単語があるのです。「メタノイア」は「心を神様の方向に向けること」、だからこそ、教会で「カイシン」は、「改める心」ではなく、「回す心」と書くんですね。「心を神様に向ける」、今日の福音の後半、イザヤさんの預言の引用で、「道」というものを、ことさら強調しているのも、うなずける気がします。一本道を歩く時、私たちは後ろ向きに歩くことはしませんし、よそを向いて歩けば転んで怪我をする恐れがあります。道を歩く時、私たちは、まっすぐ前を向いて歩くのです。まっすぐ、終着点を見つめて。その終着点が山や丘に遮られて、ジャンプしても見えなければ、意気込みもそんなに大きくはないでしょうが、神様はヨハネを通して、視界を遮る山や丘を平らにされ、しかも、私たちが歩きやすいように、曲がった道をまっすぐにし、でこぼこの道を整えて下さいます。

終着点におられる方、それは言うまでもなくイエス・キリストです。初めは見えないキリスト、しかしイエス様はそこにおられます。洗礼者ヨハネは、このイエスキリストを、人々がはっきりと見、遂には一致し、キリストを「着る」までになるために、「悔い改め」の洗礼を授けたのです。今日の第一朗読と第二朗読には、それぞれ、「義の衣を身にまとい」、「栄光の冠を身につけよ」、「知る力と見抜く力とを身につけて」、と記されています。私たちは「身につける」という言葉を使う時、文字通りに「着る」という意味でも使いますが、同時に、「習得する」、「自分の力とする」という意味でも使います。私たちはキリストと一致し、キリストを「着る」ことによって、キリストを「自分の力とする」のです。

私たちは、神様が整えて下さった道を進みます。そしてイエス様もその道を、私たちの方へ歩いて来られます。私たちもイエス様も、お互いを求めているのです。クリスマスまでの3週間、私たちが更に、キリストを求める心を燃え立たせることができますように、そして、クリスマスに、その心を一気にスパークさせることができますように、共に祈りましょう。

カトリック高円寺教会  
助任司祭 林 正人